

千葉商工会議所景気動向調査

平成 29 年 8 月調査結果

平成 29 年 9 月

千葉商工会議所

千葉商工会議所景気動向調査

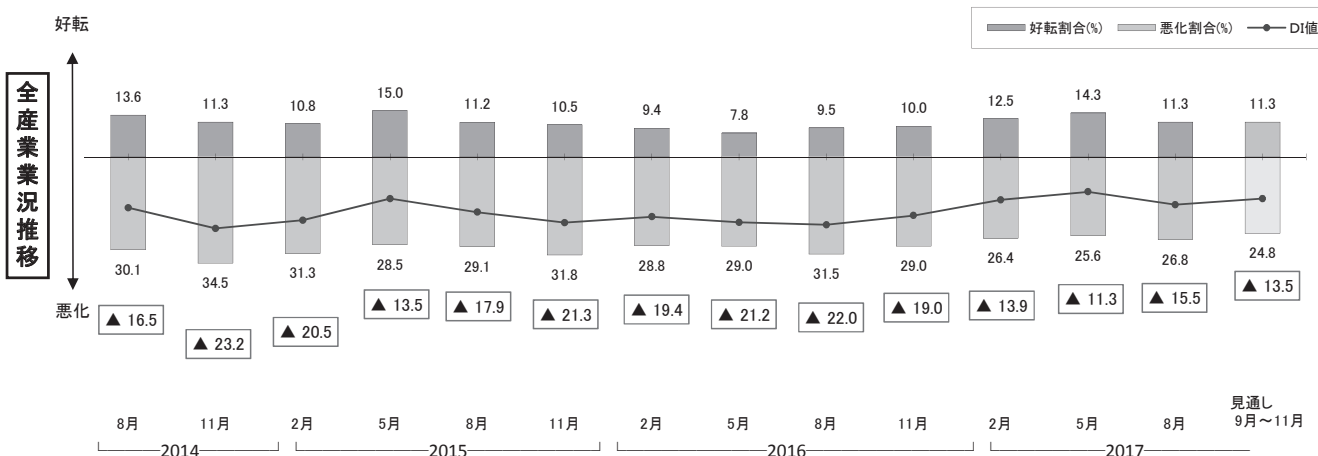
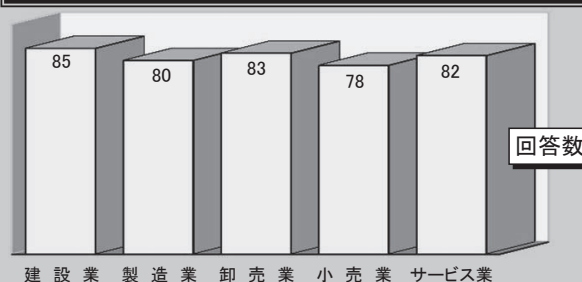
……平成29年8月調査結果報告……

調査期間：平成29年8月10日(木)～8月25日(金)

調査対象：千葉商工会議所法人会員事業所 500社
(回答 408社 回答率 81.6%)

DI値(景気動向指数)とは、売上・採算・業況などの項目についての判断の状況を表す。ゼロを基準としてプラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。
従って、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がり意味する。

DI値：(増加・好転などの回答割合)－(減少・悪化などの回答割合)



【全体的特徴】

(▲はマイナス)

業況DI(前年同月比ベース、以下同じ)を見ると、前回調査(平成29年5月、以下同じ)と比較して、建設業・卸売業・小売業・サービス業が下降し、製造業が上昇した結果、全産業合計DIは4.2ポイント下降して▲15.5となり、4期ぶりの悪化となった。

また、向こう3ヶ月(9月～11月、以下同じ)の先行き見通しは、製造業・サービス業が下降し、建設業・卸売業・小売業が上昇の見込みとなっており、全産業合計DIは現状より2.0ポイント上昇の▲13.5となっている。

売上DIでは、前回調査と比較して、小売業・サービス業が下降し、卸売業が上昇し、製造業・建設業が横ばいとなった結果、全産業合計DIは1.4ポイント下降して▲12.0となり、5期ぶりの悪化となった。

また、向こう3ヶ月の先行き見通しは、製造業・サービス業が下降し、建設業・卸売業・小売業が上昇する見込みとなっており、全産業合計DIは現状より6.0ポイント上昇の▲6.0となっている。

採算DIでは、前回調査と比較して、卸売業・小売業・サービス業が下降し、建設業・製造業が上昇となった結果、全産業合計DIは0.4ポイント下降して▲15.0となり、横ばいとなった。

また、向こう3ヶ月の先行き見通しは、製造業・小売業が下降し、建設業・卸売業・サービス業が上昇の見込みとなっており、全産業合計DIは現状より0.1ポイント上昇の▲14.9となっている。

仕入単価DIは、4期ぶりに改善しているものの、原材料・燃料価格の高騰は続いていると見られる。

従業員DIは、2期ぶりに上昇となっており、深刻な人手不足の状況が続いている。

資金繰りDIは、5期ぶりに悪化しているもの、長期的には横ばいとなっている。

全体を総括すると、天候不順等による小売業の業況悪化が影響し、業況DIが4期ぶりに悪化している。従業員DIは2期ぶりに上昇となっており、深刻な人手不足の状況が続いている。仕入単価DIは4期ぶりに改善しているものの、原材料や燃料の価格高騰に関する声が複数寄せられている。先行き見通しは、建設業・卸売業・小売業・サービス業が上昇し、製造業が悪化した結果、上昇すると見込まれているものの、慎重な見方が続いている。

【調査結果のポイント】天候不順等の影響があり、業況DIが4期ぶりに悪化し、また、人手不足や原材料・燃料価格高騰の状況が続いている。先行き見通しは、製造業を除き改善が見込まれるものの、慎重な見方が続いている。

【全産業】

【業種別特徴】

・建設業

前回調査と比較して、業況DIは2.7ポイント下降して▲17.9に、売上DIは0.2ポイント下降して▲18.9に、採算DIは2.1ポイント上昇して▲16.7となった。業況DIは2期連続の悪化、売上DIは横ばい、採算DIは2期ぶりの改善となった。向こう3ヶ月の先行き見通しは、業況DI・売上DI・採算DIは全て現状より上向くとの見方になっている。

調査回答企業からは、「労働者賃金を見直す(値上げ) 必要あり」「従業員確保の為、長時間労働の是正に取り組んでいる」などの声があった。

・製造業

前回調査と比較して、業況DIは3.8ポイント上昇して5.0に、売上DIは0.4ポイント上昇して8.7に、採算DIは12.2ポイント上昇して5.0となった。業況DIは2期ぶりの改善、売上DI・採算DIは3期連続の改善となった。向こう3ヶ月の先行き見通しは、業況DI・売上DI・採算DIは全て現状より下向くとの見方になっている。

調査回答企業からは、「建機業界が好調すぎて反動が怖い」「人手不足があり不安」などの声があった。

・卸売業

前回調査と比較して、業況DIは3.0ポイント下降して▲26.5に、売上DIは13.7ポイント上昇して▲20.5に、採算DIは2.7ポイント下降して▲24.1となった。業況DIは2期ぶり、採算DIは2期連続の悪化、売上DIは4期ぶりの改善、となった。向こう3ヶ月の先行き見通しは、業況DI・売上DI・採算DIは全て現状より上向くとの見方になっている。

調査回答企業からは、「飲食事業は、とにかく厳しい状況」「企業の成長のためには労働生産性のアップが課題である」などの声があった。

・小売業

前回調査と比較して、業況DIは12.6ポイント下降して▲29.5に、売上DIは15.8ポイント下降して▲23.1に、採算DIは12.3ポイント下降して▲23.4となった。業況DIは3期ぶり、売上DI・採算DIは2期ぶりの悪化となった。向こう3ヶ月の先行き見通しは、業況DI・売上DIは現状より上向くものの、採算DIは現状より下向くとの見方になっている。

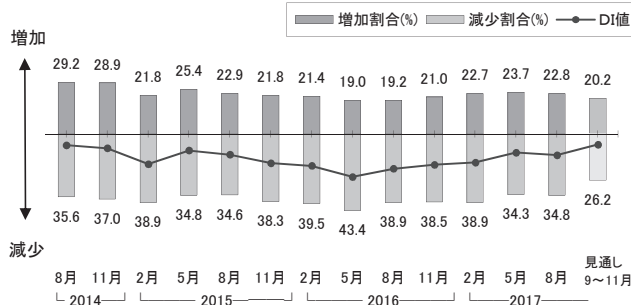
調査回答企業からは、「新卒も中途も募集しても集まらない」「雨が続き、天候が悪かったため、売上があまり伸びなかった」などの声があった。

・サービス業

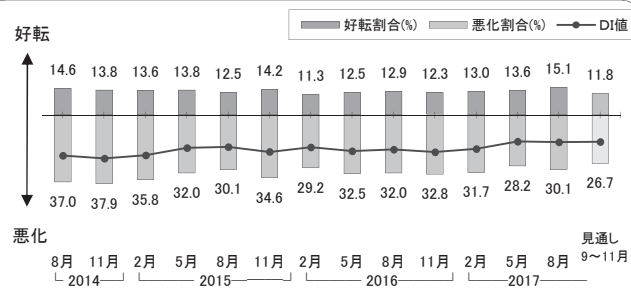
前回調査と比較して、業況DIは6.1ポイント下降して▲8.5に、売上DIは4.8ポイント下降して▲6.0に、採算DIは1.2ポイント下降して▲15.8となった。業況DI・採算DIは2期ぶり、売上DIは3期ぶりの悪化となった。向こう3ヶ月の先行き見通しは、採算DIは現状より上向くものの、業況DI・売上DIは現状より下向くとの見方になっている。

調査回答企業からは、「退職者の補充を募集しているが、2ヶ月の間ほとんど応募がない」「景気が上向いているといわれているが実感がない」などの声があった。

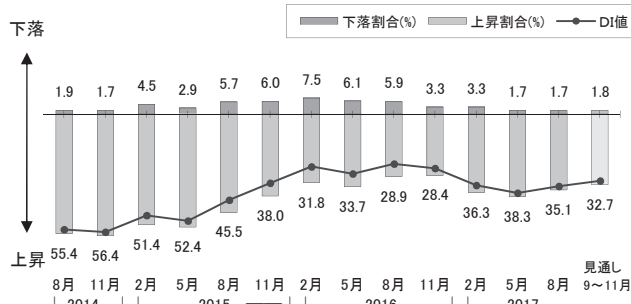
売上推移



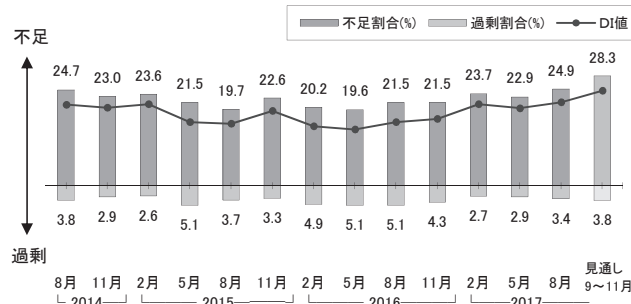
採算推移



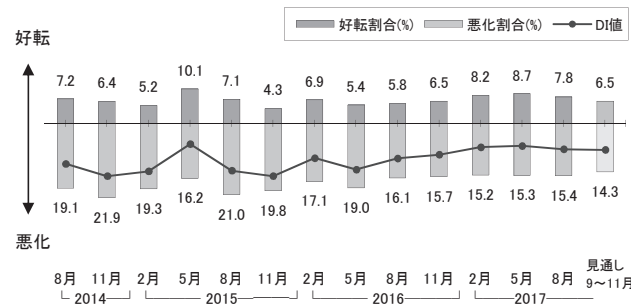
仕入単価推移



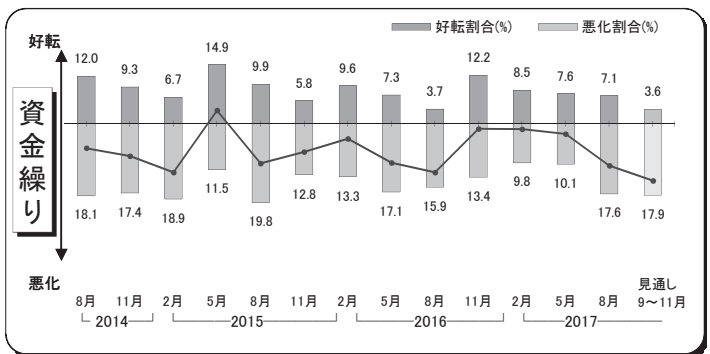
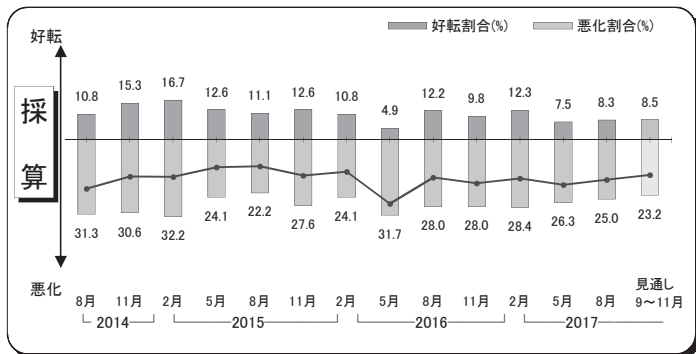
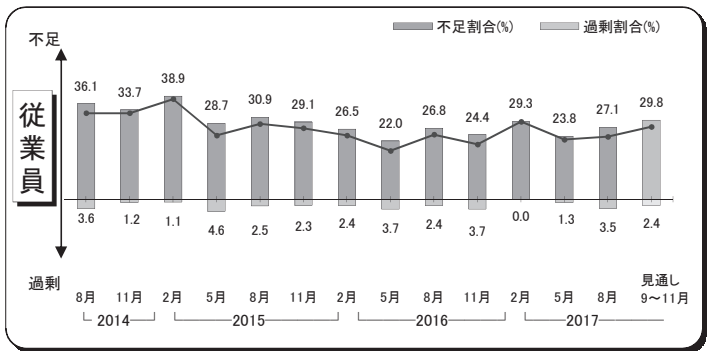
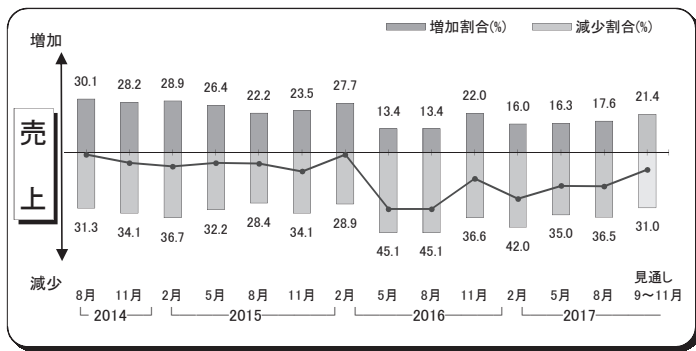
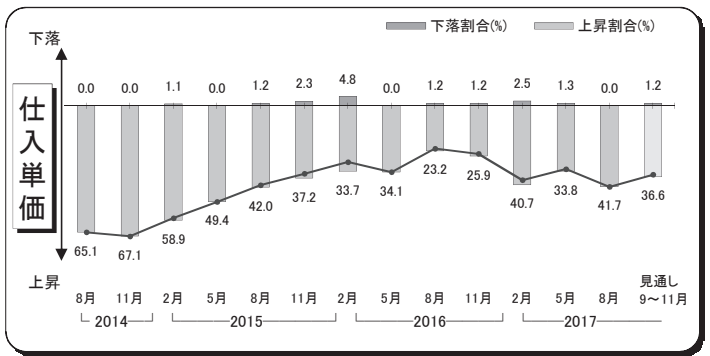
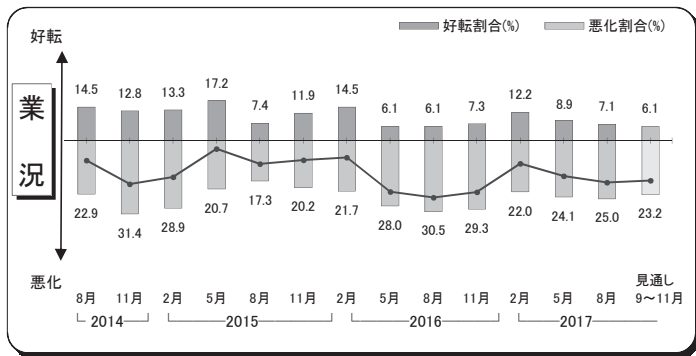
従業員推移



資金繰り推移



【建設業】①

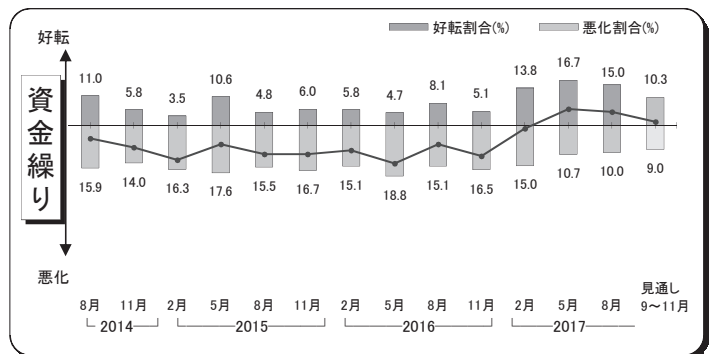
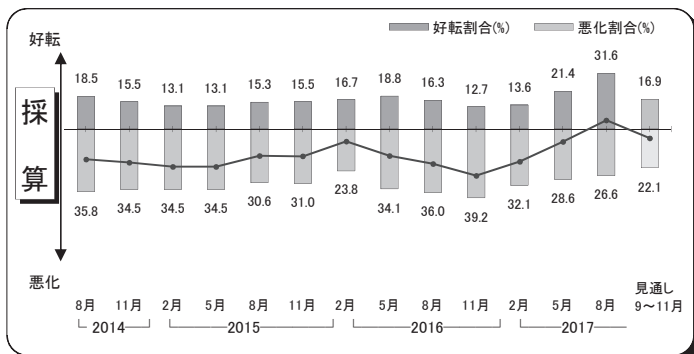
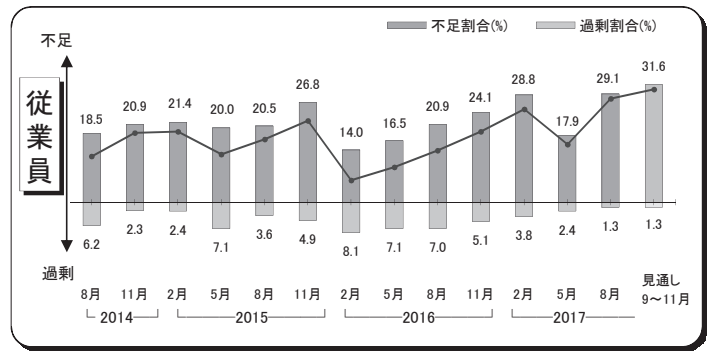
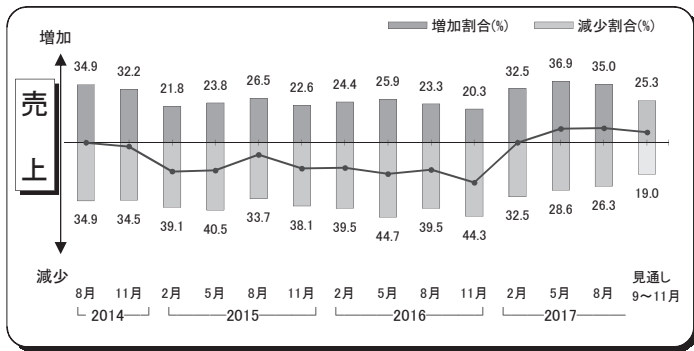
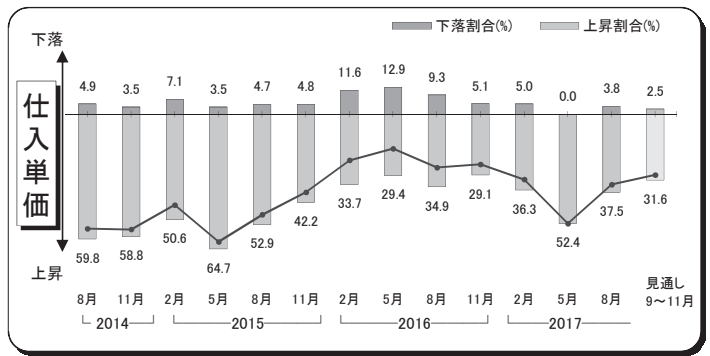
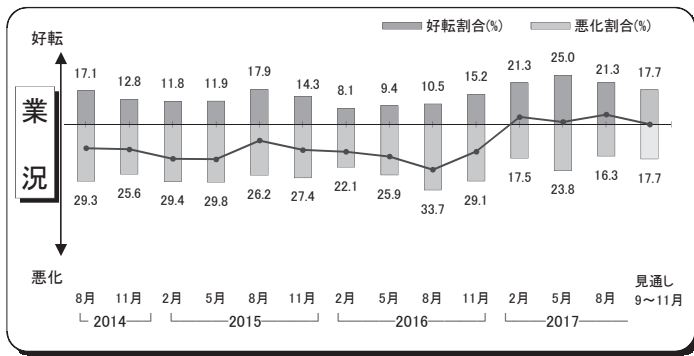


【建設業】②

企業の声（日本標準産業分類順）

土木建築工事業	昨年に比べて売上も減少（建物・土地）している。先行きの見通しがつかない。物件は変わらず増加しているが、販売が思うように伸びない。改革は常にしているが、消費者の購買意欲が減少しているように思う。
土木建築工事業	下請け間、価格競争は依然厳しい。実際のところ、元請の厳しい指し値で受注している状況。交渉の余地なし。本当にこの価格でできる下請けがいるのかとも思うが、聞くことができない。
土木建築工事業	相変わらず人材不足（作業員）に悩んでいます。5月には初めて、女性を3名採用しました。力がないとできない業種というイメージを払拭すべく、改新的なことでしたが、全体的には作業員も減少傾向にあります。
とび工事業	工事件数は確保できたものの全体件数が少ないため、価格の下落と人手不足による賃金高騰があだとなっている。
とび工事業	無理な工程は組まない。
電気工事業	取引先が減少したことが悪化につながる。新規得意先開拓に関しては、工事費には無理があり、紹介等のチャンス待ち。
電気工事業	人材の確保及び人材育成の支援を切望する。
管工事業	人手不足。若い能力（現場労働者も含めて）のある人材の不足。労働者賃金を見直す（値上げ）必要あり。
管工事業	東京都内の建設投資は好調であるが、千葉県内は隣接の浦安市近辺以外、案件は少ない。
冷暖房設備工事業	8月は天候不順の影響か昨年に比較して減収となった。従業員確保の為、長時間労働の是正に取り組んでいる。9月は、増収の見込みだが、その後は不透明で気になるところだ。

【製造業】①

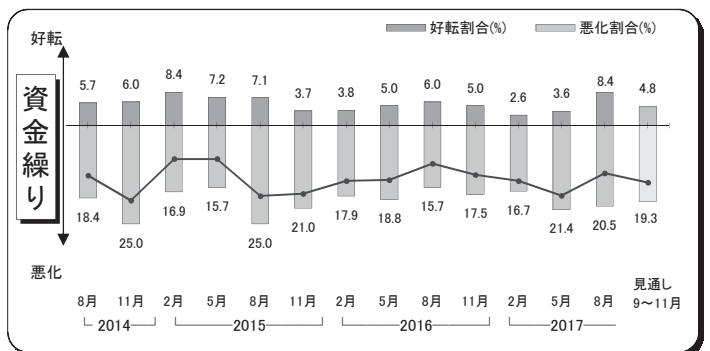
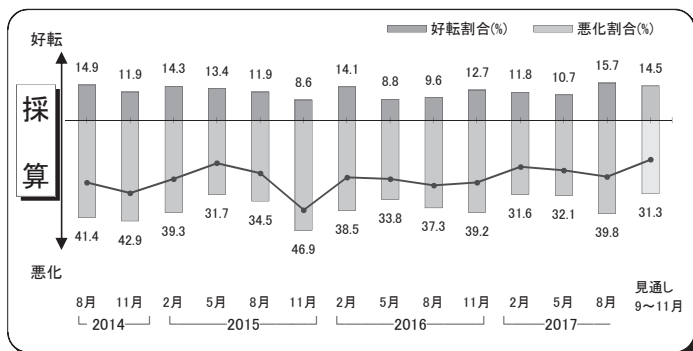
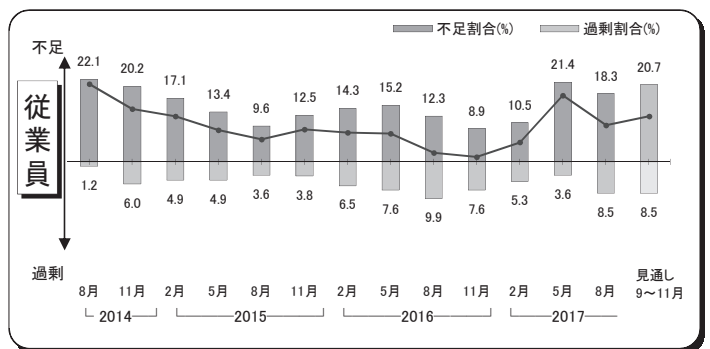
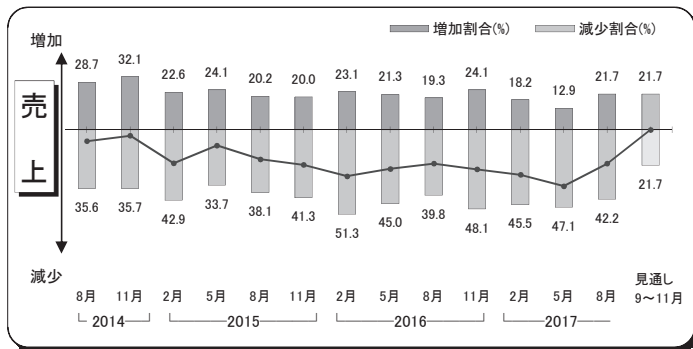
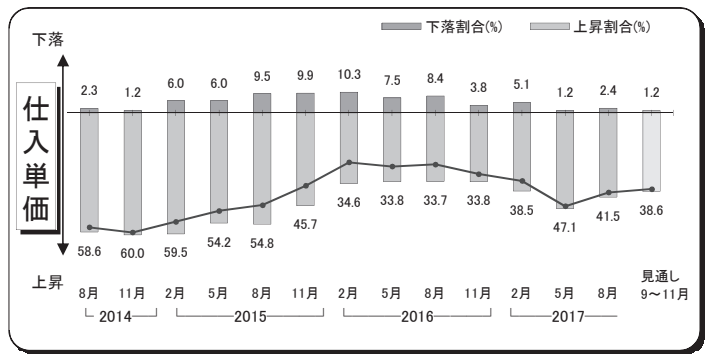
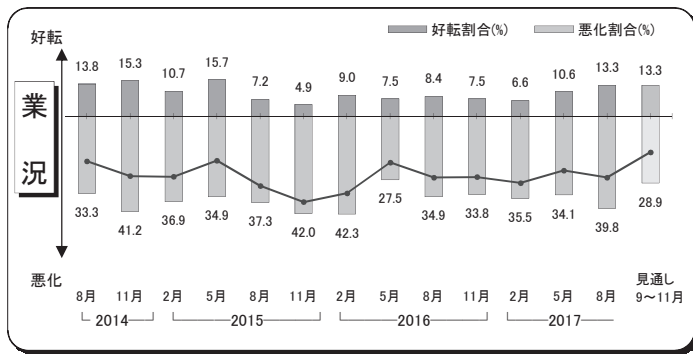


【製造業】②

企業の声（日本標準産業分類順）

帆布製品製造業	引合いが大幅に減少。
オフセット印刷業	都内からの受注に変化はありませんが、県内の仕事量が減っています。
コンクリート製品製造業	業況は好転しつつある。以前より中規模、大規模の整備、工事が増えてきたように思う。人手も不足気味。現在では長時間労働はほとんど行っておらず、是正については取り組んでいない。
建設用金属製品製造業	平成 29 年 5 月期同様、受注高、売上高共、順調に推移している。納期等、常に客先の要望に応えるべく、作業工程をしっかりと立てながら進んでいきたい。このまま良い状態が長く続いていく事に期待している。
金属製品製造業	社会保険に加入したが、現場作業の継続が難しく、仕事が切れる期間が生じる。無収入となり大きな問題となってふりかかっている。（月々の売上に関係者の保険料を支払う事が厳しくなる）
物流運搬設備製造業	当社業界の大手役員様から今後の業況を聞きましたところ、2019 年から 2020 年をピークに業況悪化に陥るのではないかとのお話でした。数社から同じような話を聞きました。対応に苦慮しているところです。
建設機械・鉱山機械製造業	当社は建築基礎資材のリース・修理・管理を営んでいます。アベノミクスが浸透してきて関東地域でも工事が行われるようになってきています。オリンピック景気の影響だと思っています。
金属工作機械製造業	建機業界が好調すぎて反動が怖いです。リーマンショックの時を考えると事前に準備が必要だと思います。新事業の準備が終り、いよいよ本格稼働します。
生産用機械・同部品製造業	不安定受注体制のため、納期対応で多忙な時もあるが、絶対量は変わらない。後半の景気回復に期待する。
理化学機械器具製造業	海外からの受注増によりトータルの売上は増加していますが、国内の受注は相変わらず低迷状態が続いています。
集積回路製造業	長時間労働につきましては、当社は定時で帰ると定めていますが、修理品が多く残業をしなければ間に合わない場合は、事前に残業許可を取ることにしています。週 10 時間から 15 時間以内を定めてある。
電子部品・デバイス・電子回路製造業	弊社の場合、残業は元々少ない。
電力開閉装置製造業	人手不足があり不安。

【卸売業】①

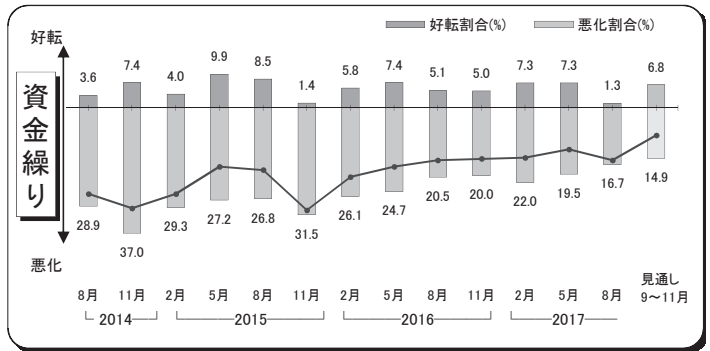
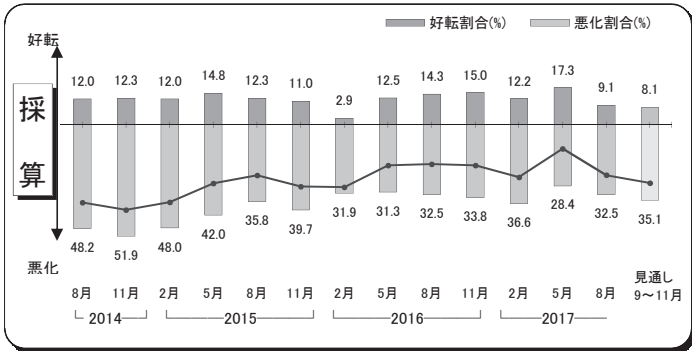
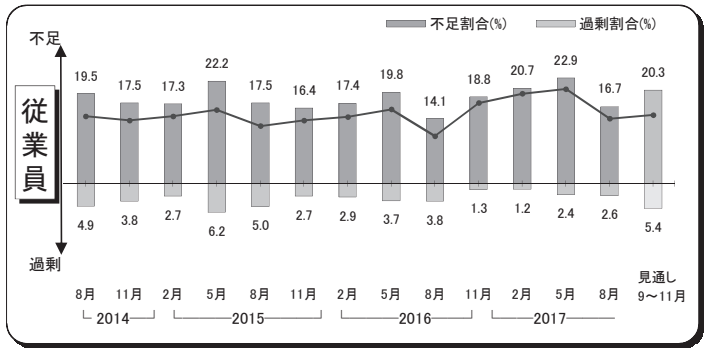
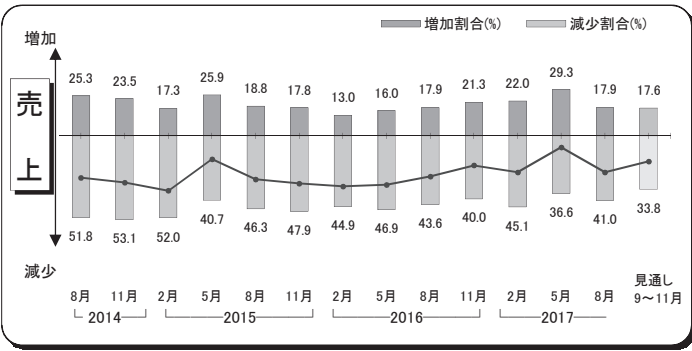
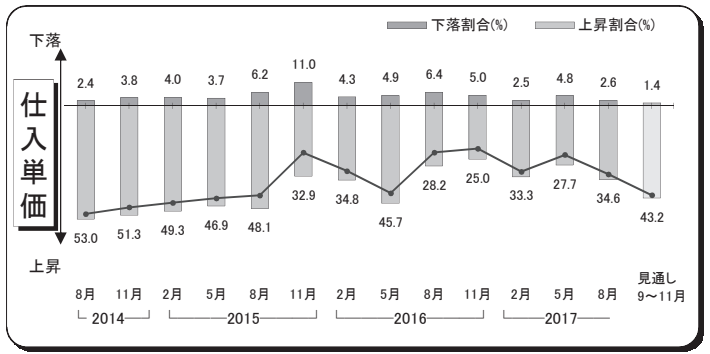
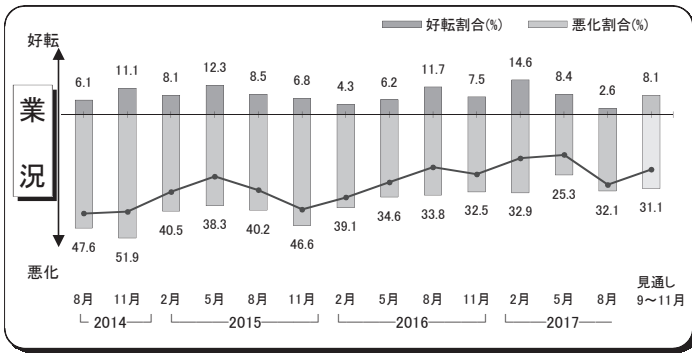


【卸売業】②

企業の声（日本標準産業分類順）

食料・飲料卸売業	飲食事業は、とにかく厳しい状況が変化なく継続中です。新規事業として、異業種との取組、弊社独自の新加工技術を生かした製品作りで事業拡大中。
鉄鋼製品卸売業	スクラップから一般品種まで、やや強含みで推移し、メーカーのみ増益も、我々流通においては、仕入扱いトン数が限られ、数量増期待できず、その上、この所の円高で利益確保が非常に困難な状況が続いております。
非鉄金属スクラップ卸売業	大気汚染対策としての環境規制により、中国ではアルミ溶解設備の停止が指示され、大幅な強制減産となり、それを受けてアルミ市況も上昇傾向。ただし、中国が減産すれば中近東、欧米が増産に転ずるはず。高値は長く売れはしないと思う。飲料缶スクラップの発生も10月いっぱいには順調に発生するでしょう。
事務用機械器具卸売業	公共事業の減少
産業機械器具卸売業	取引先国の輸入手続き及び関税についての法改正が行われ、現地では、その対応に追われて、大変混乱しており、その影響で当社も輸出業務が保留状態になり、落ち着くまでは少々時間がかかりそうです。
理化学機械器具等卸売業	企業の成長のためには労働生産性のアップと、コンピュータウイルスよりも何十倍もの危険性が潜むヒューマンエラーをいかにしてなくすかが最大の課題であると思っています。

【小売業】①

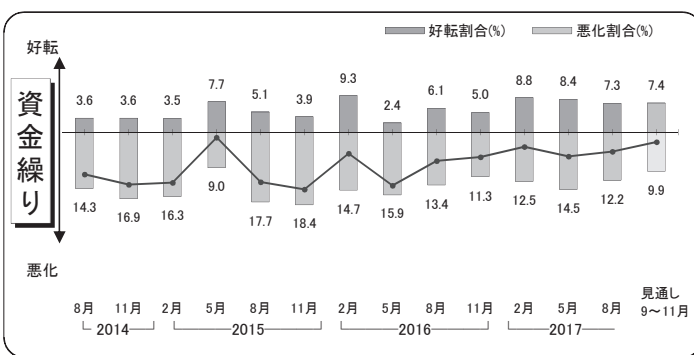
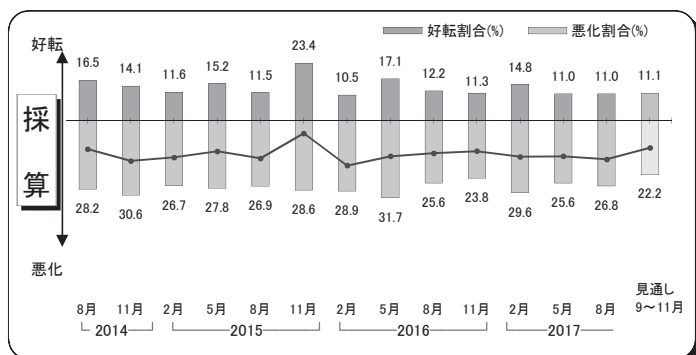
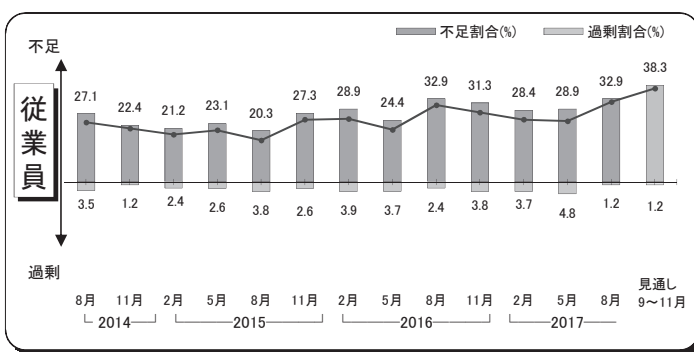
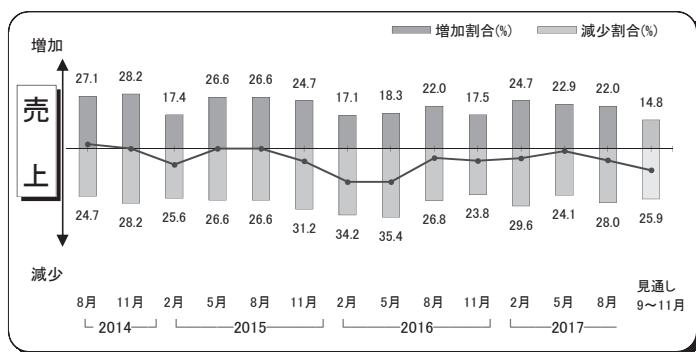
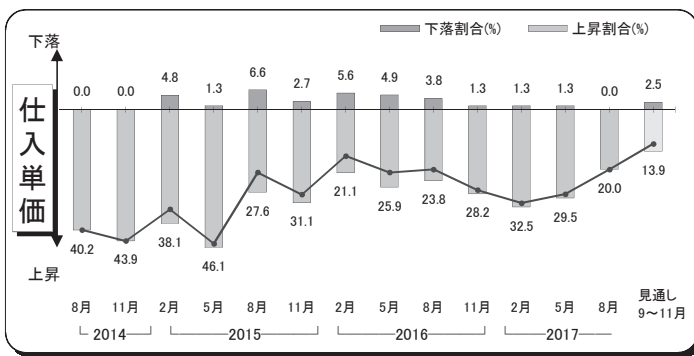
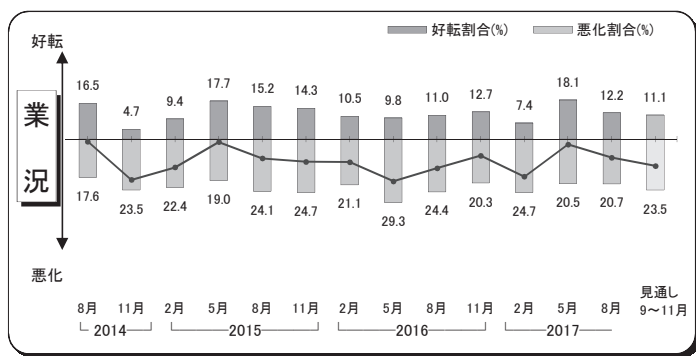


【小売業】②

企業の声（日本標準産業分類順）

食肉小売業	千葉市では大手の非常に力のあるスーパー業の開店で今までの小売店・地元スーパーマーケットの閉店が相次いでいる。これからの先行きの見通しは不安であるが協同して上昇するようにしていきたいと思います。
自動車（新車）小売業	安定しない。
中古自動車小売業	大手企業に淘汰されつつある。ドミナント戦略により各地域への出店が目立ち、人の流れが変わってきている。生き残り作戦として真の経営が試される。戦略戦術をしっかりと持ち、大手にないサービスの向上を図ることが先決である。小回りのきいたフットワークであることが中小の良さではないかと感じている。
電気機械器具小売業	新卒も中途も募集しても集まらない。
電気機械器具小売業	7、8月はエアコン販売が好調。9月以後の見通しは闇のなか。
医薬品小売業	来年度の医療費改訂が怖い。
スポーツ用品小売業	競技人口の減少で大手の身売り、撤退等、業界自体が大幅に縮小しています。生き残りをかけて頑張っていますが苦戦しています。今までと全く違う取り組みをしなといけないのかもしれない。
ホームセンター	複合商業施設開業など、同業他社の動向が大きく影響。
他に分類されない その他の小売業	住宅改修は増加したが、会社にとって最重要な福祉用具レンタル、販売が全く伸びなかった。これでは利益がでない。
男子服小売業	店舗がある地域の高齢化が進んでいるため、売上が減少した。衣料品を販売しているが、年配の方はあまり外出しないため売れない。また、固定客も高齢化しており、体調不良などで店舗まで来られない方も多い。
総合小売業	近隣に同じ業種の店舗がオープンしたため、客足が減ってしまった。
医薬品小売業	訪問件数が減ったことなどが影響して売上が昨年度より減少した。
酒小売業	雨が続き、天候が悪かったため、売上があまり伸びなかった。一方でイベントを行った際の売上は好調だった。通常の営業だけではなく別の行動をとっていくべきなのかもしれない。
陶磁器・ガラス器小売業	一般のお客さんや飲食業界のお客さんが少しずつ減っている状況。千葉市においても、日本全体においても景気があまり良くない。店舗で商品が売ることが減り、業者に売ることが主になっている。

【サービス業】①



【サービス業】②

企業の声（日本標準産業分類順）

情報処理サービス業	まだ景気上昇が見込めるまではっていない。公的支援を追加して頂きたい。
運輸付帯サービス業	現状若干減少している。一時的な売上増があったが一過性のもの。報道されている増収増益は一部の大企業と建設関係でなかろうか。経費他の上昇を価格に上乗せできない現実と景気の一部の持ち直しによる人手不足は今後も続くと考えている。退職者の補充を募集しているが、2ヶ月の間ほとんど応募がない。
貸事務所業	世の中で、上向いてきているのではとされていますが実感がありません。下々にまで回ってくるのはいつになるのでしょうか。
貸事務所業	営業のできる人材が不足しています。
経営コンサルタント業	補助金取得支援の仕事がなくなり、周辺の会社は業務縮小している。
建築設計業	相変わらず、景気回復の気配は感じられません。
建築設計業	今年度、従業員の補充（3人）をしたので、その訓練にあけてくれ、業務が進行しないため、業況が悪化している面があるが、受注は普通である。
旅館、ホテル	7月以降先行予約が前年に比べ弱く、その上リードタイムが短く単価アップが図りづらい。その為、収益は悪化方向に。また京成千葉中央駅やJR千葉駅周辺において新規ホテルの開業が予定されており、ホテル間の競争が激しくなる。
専門料理店	8月は久しぶりに売上が戻ってきたが、当社の食品輸入卸は年初から6月まで全く振るわなかった。飲食部門は4月から7月まで低迷していた。北朝鮮問題が日本国民に与えた心理的影響もあったと思うが、働き方改革政策のネガティブな面の影響、つまり、残業をやらなくなった分収入が減り、今までの遊興や余暇に回していた収入がなくなる分、財布の紐を固くしている感じがする。副業の自由が得られても、競争禁止のことがあるため、慣れない副業につくことは二の足を踏む人が多いと思う。副業が原因で心身の健康を害するリスクも増すので、長い目で見ればかえって生産性を落とし、GDPの減少理由となるのではないかと思う。むしろ、適切な範囲で残業をして割増賃金をもらうことで、少しでも贅沢を楽しむ経済的余裕を持てるようにした方が、消費も増え、あるいは維持され、経済的にダイナミックな社会になっていくように思う。
すし店	夏休みがあり例年通り売上が落ちますが、休暇は大切だと思います。
喫茶店	小企業が生き残る環境ではない。

*前年同月比"DI値の推移

(1)業 況

Table with 18 columns (Month, Year) and 11 rows (業種: 全産業, 建設, 製造, 卸売, 小売, サービス). Values range from -58.1 to 47.7.

(2)売 上

Table with 18 columns (Month, Year) and 11 rows (業種: 全産業, 建設, 製造, 卸売, 小売, サービス). Values range from -52.0 to 47.7.

(3)採 算

Table with 18 columns (Month, Year) and 11 rows (業種: 全産業, 建設, 製造, 卸売, 小売, サービス). Values range from -66.1 to 47.7.

(4)仕入庫価

Table with 18 columns (Month, Year) and 11 rows (業種: 全産業, 建設, 製造, 卸売, 小売, サービス). Values range from -12.6 to 47.7.

(5)従業員

Table with 18 columns (Month, Year) and 11 rows (業種: 全産業, 建設, 製造, 卸売, 小売, サービス). Values range from -9.6 to 47.7.

(6)資金繰り

Table with 18 columns (Month, Year) and 11 rows (業種: 全産業, 建設, 製造, 卸売, 小売, サービス). Values range from -27.5 to 47.7.

千葉商工会議所景気動向調査 …平成29年8月調査結果報告…
 (付帯調査) 集計結果

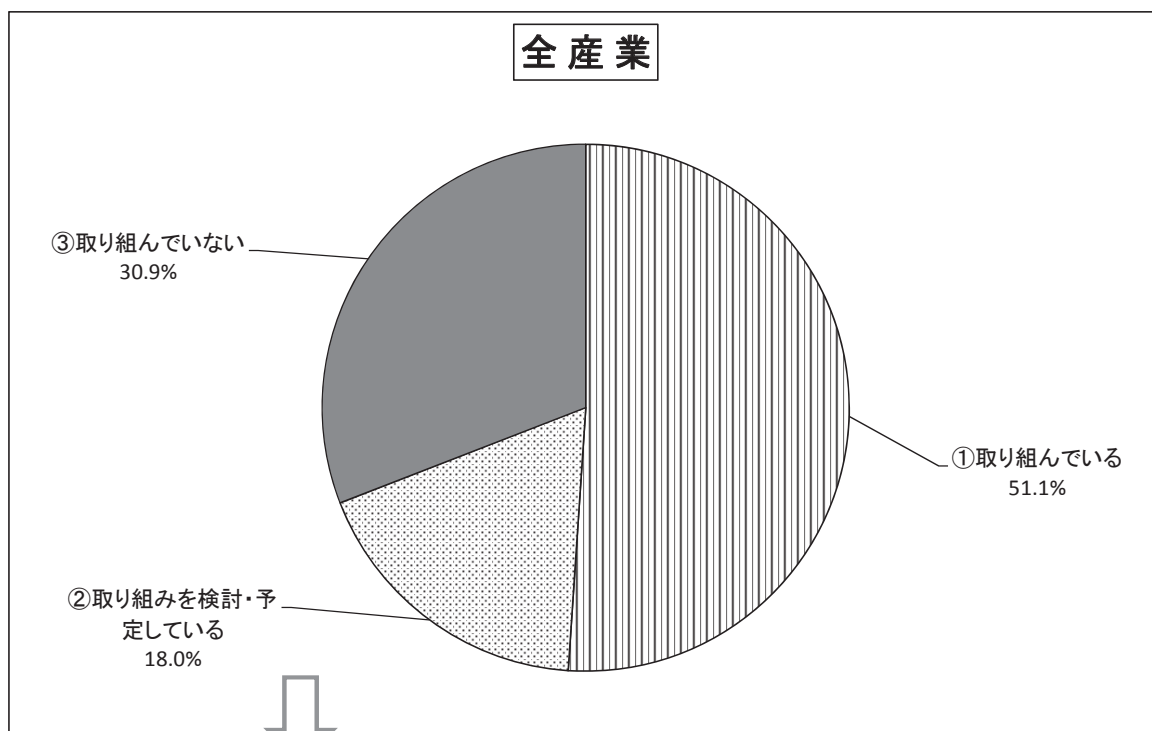
業種	全業種	建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業
回答数	327	69	68	56	61	73

【調査結果のポイント】

- ・長時間労働の是正に向けた取り組みに意欲的な企業(※1)は全体の69.1%。
- ・取り組んでいる、または取り組みを検討・予定している内容は「意識改革(管理者・従業員)」との回答が多い。

(※1)意欲的な企業とは長時間労働の是正に「取り組んでいる」または「検討・予定している」と回答した企業

(1)長時間労働の是正について



長時間労働の是正に意欲的な企業(※1)の業種別の割合

	全産業	建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業
割合	69.1%	68.1%	72.1%	58.9%	73.8%	71.2%

内訳(※2)

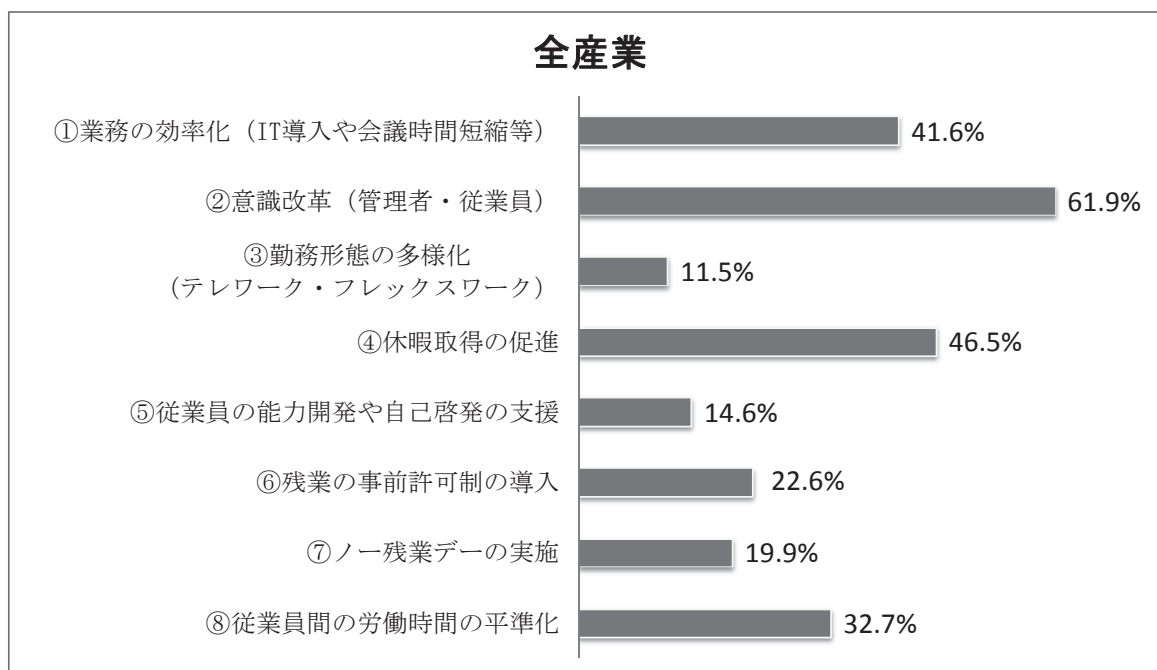
	全産業	建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業
取り組んでいる	51.1%	42.0%	52.9%	46.4%	62.3%	52.1%
取り組みを検討・予定している	18.0%	26.1%	19.1%	12.5%	11.5%	19.2%
取り組んでいない	30.9%	31.9%	27.9%	41.1%	26.2%	28.8%

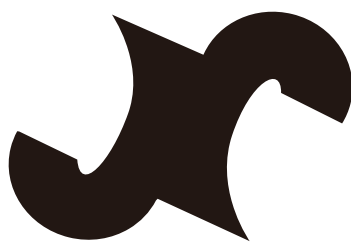
(※2)内訳は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計しても必ずしも業種別の割合と一致しない

(2) 長時間労働の是正のための取り組み内容について

「(1)長時間労働の是正について」で「取り組んでいる」または「取り組みを検討・予定している」と回答した企業に伺った。(複数回答可)

	全産業	建設業	製造業	卸売業	小売業	サービス業
①業務の効率化 (IT導入や会議時間短縮等)	41.6%	36.2%	36.7%	51.5%	46.7%	40.4%
②意識改革 (管理者・従業員)	61.9%	48.9%	67.3%	78.8%	55.6%	63.5%
③勤務形態の多様化 (テレワーク・フレックスワーク)	11.5%	10.6%	8.2%	9.1%	6.7%	21.2%
④休暇取得の促進	46.5%	57.4%	36.7%	45.5%	42.2%	50.0%
⑤従業員の能力開発や自己啓発の支援	14.6%	25.5%	10.2%	6.1%	11.1%	17.3%
⑥残業の事前許可制の導入	22.6%	12.8%	32.7%	24.2%	22.2%	21.2%
⑦ノー残業デーの実施	19.9%	21.3%	18.4%	21.2%	26.7%	13.5%
⑧従業員間の労働時間の平準化	32.7%	36.2%	34.7%	39.4%	26.7%	28.8%





【お問い合わせ】
千葉商工会議所
総務部 企画広報課

〒260-0013

千葉市中央区中央 2-5-1

TEL: (043) 227-4101

Mail: chosa@chiba-cci.or.jp